

現代人間学部 福祉生活デザイン学科

目指すべき人材像	4年間で育てたい力 (ND6)	ディプロマポリシー (学位授与方針)	カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施方針)	アドミッションポリシー (入学者受入れ方針)		
キリスト教精神に基づいて、他者と自分を尊重し、全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した健康な女性	キリスト教精神・女性教育	D P 1. 自分を育てる力	自己研鑽への態度	より良い生活や地域社会の実現に貢献するため、自己研鑽に努めることができる。	共通教育科目の「カトリック教育」および「女性」「健康」に関する選択科目により、キリスト教精神に基づく全人的な「常識」と「良識」、さらには自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけながら、社会に貢献していけるよう自分の見識、能力を高めるための意欲や学びの技術、学修への態度を養成するため初年児教育としての「福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ」を1年次前期に配置するとともに、それを受けて現代生活の基本的スキルや地域・企業の現場体験を通じて自己のキャリア形成意欲高めるため、「福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ」(1年次後期)、「福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ」(2年次前期)を順次配置する。さらに3年次に配置された「福祉生活デザイン特論」の中で自己の描くキャリアを具体化させていくための知識、態度を養成する。	〔期待する能力〕 社会に貢献できるよう自分を高めたいと考え、自分の生活や人生を主体的に築いていく意欲をもっている。 〔選考方法〕 面接、自己記入書、書類、筆記
			キャリア形成意欲	職業生活や家庭生活、個人の生活を総合的にとらえ、ワークライフバランスを実現して充実した人生を築いていく力を身につけている。		
人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけ、新たな理解を行い、自己涵養に努める女性	知識・理解	D P 2. 知識・理解力	知識・技能の習得	衣食住や家族、福祉に関する幅広い知識・技能を身につけている。	現代社会に福祉を前提とした生活の基本的な知識や考え方を理解するために、衣食住、家族、福祉に関する基礎科目5科目を1年次に配置する。同時に基礎的知識を裏付けるため、福祉を含めた生活の基礎的技術や地域や福祉、企業等の現場を体験する「福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ」「福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ」を配置する。そのうえでさらなる生活や福祉の専門的知識を身につけるために展開科目、関連科目の専門科目群を配置する。	〔期待する能力〕 入学後の就学に必要な基礎学力としての知識や理解力を有するとともに、家族や個人の暮らしに必要な衣食住、福祉について、自ら積極的に学び知識を身につけたいと考えている。 〔選考方法〕 学力試験、小論文、筆記、書類
			課題認識と理解力	家族や個人の暮らしに潜在する課題を理解し、社会的対応の必要性を認識できる。		
グローバル化の時代に対応し、外国語および日本語で、国籍や言語の異なる人々とも円滑にコミュニケーションを行うスキルや外国語を読み書きできる力を身につけた女性	汎用的技能	D P 3. 言語力	言語活用力(コミュニケーション力)	相手の立場を考えながら、場に応じて適切なコミュニケーションができる力を身につけている。	共通教育において多言語に関する能力を養いながら、社会問題に関して議論する(「福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ」)、特定テーマについてグループでコミュニケーションをはかりながら協同で探究する(「福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ」)などの目的で必修科目を配置する。 専門基礎科目(1年次必修 5科目)で身につけた基礎的知識を基盤に、単なる知識にとどまらず、生活とその支援をめぐる諸問題について、課題の本質を見極め解決に向けた考え方や方策を見出させる力を養うことを目的とした「展開科目」を衣食住、福祉の各分野で配置する。	〔期待する能力〕 学んだ知識や技術を用いて、積極的に他者と関わるということに関心がある。 〔選考方法〕 面接、自己記入書、書類、筆記
			クリティカル・シンキング力	生活のあり方や生活課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につけている。		
現代社会のさまざまな課題に対して、知識や現象を分析し、適切な情報処理を行って、批判的、論理的に思考し、問題解決を行う力を身につけた女性	態度・志向性	D P 4. 思考・解決力	問題解決能力	身につけた衣食住や福祉の専門的知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。	〔期待する能力〕 生活や福祉に関心を持ち、身につけた知識や技能を、生活をより良くするために役立てる力を身につけたいと思っている。 〔選考方法〕 面接、自己記入書、書類、筆記	
			共感する力	他者に共感でき、生活困窮者に寄り添う態度が身につけている。		
他者に心を開き、社会で不利な立場におかれた人々を含む、さまざまな人々と共生・協働する力を身につけ、すべての人が幸せに生きていくことに貢献する力を身につけた女性	態度・志向性	D P 5. 共生・協働する力	協働する力	地域や福祉の現場で他職種と協働しながらかわる支援者としての技術を身につけている。	地域での生活や福祉の現場、企業活動の最前線で体験し共感(「福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ」)したことを元に、特定テーマを立てて共同研究、共同発表する(「福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ」)ため、2年次必修の基幹科目群を配置する。それを引き継ぎ、共感、協働の場として「展開科目」「関連科目」に生活や福祉に関わる実習科目を配置するとともに、専門ゼミで各専門分野に関わる課題の現状に触れ、ゼミ単位で協働の機会をもつために3年次に「福祉生活デザイン特論」を配置する。	〔期待する能力〕 周りや協力しながら、相手の立場に立って物事を考えようと努力し、行動したいと考えている。 〔選考方法〕 面接、自己記入書、書類、筆記
			共感する力	他者に共感でき、生活困窮者に寄り添う態度が身につけている。		
総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信する女性。また、専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信する女性	統合的な学習経験と総合的思考力	D P 6. 創造・発信力	情報収集・発信力	自他の課題解決のための情報収集ができ、必要に応じて発信やプレゼンテーションができる。	情報収集、発信のための知識や技術を修得し、さら身につけた知識や技術を活用して新たな提案や作品を行うために、1年次から4年次あたり、基幹科目から専門演習・卒業研究までの必修科目群を配置する。	〔期待する能力〕 より良い生活の創造に関わり、自分の考えを発信したいと考えている。 〔選考方法〕 面接、自己記入書、書類、筆記
			創造力	身につけた知識や技術を活用し、生活をめぐる新たなこと、物を作り出していく力を身につけている。		